

| | | | | | |
|---|-----------------------------|---|---------------|--|------|
| 科目名 | 農業と環境 | | 学年 | 類型・コース | 単位数 |
| | | | 1年 | 農業科 | 2 単位 |
| 学習の目標 | 作物の栽培を通して基本的な知識・技術を身につける。 | | | | |
| 使用教材 | 教科書：農業と環境（実教出版株式会社） 副教材： | | | | |
| 評価 | 評価法 | 定期考査、レポート、学習ノート、取り組み姿勢（座学・実習）などを点数化し評価する。 | | | |
| | 評価観点の趣旨 | a | 知識・技能 | 農業の基礎的な知識・技術を身につける。 | |
| | | b | 思考・判断・表現 | 栽培の基礎・基本を把握し、他の作物への応用の技術を身につける。 | |
| | | c | 主体的に学習に取り組む態度 | 農業生産の向上や経営発展へつながるような自ら学び、農業振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | |
| 上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。 | | | | | |

| 期 | 月 | 時数 | 学習項目・単元 | 学習内容 | 評価方法 | | |
|---|----|----|---|---|---------|-------|------|
| | | | | | a | b | c |
| 1 | 4 | 6 | 栽培と飼育の基礎 (トウモロコシ) 播種・定植 除草・間引き 中耕・土寄せ 病害虫の防除 かん水量と降水 追肥と肥料 生育調査 収穫 | <ul style="list-style-type: none"> ・播種・定植方法について学習し、理解する。 ・除草・間引きについて学習し、理解する。 ・中耕・土寄せについて学習し、理解する。 ・病害虫について学習し、有効な防除ができる。 ・かん水量と降水との関係について学習し、理解する。 ・肥料の種類・効果・施肥方法などを学習し、理解する。 ・生長（草丈、葉数、最大葉身幅、花穂、果穂発芽、穂の形状等）の観察をする。 ・収穫方法について学習し、適切な時期に収穫ができる。 | 定期考査・態度 | 学習ノート | レポート |
| | 5 | 8 | | | | | |
| | 6 | 8 | | | | | |
| | 7 | 4 | | | | | |
| 2 | 9 | 8 | 栽培と飼育の基礎 (タマネギ・ハクサイ) 播種・定植 除草・間引き 中耕・土寄せ 土壌生物・土壌微生物 病害虫の防除 追肥と肥料 土質と土壌PHについて 生育調査 販売・加工 収穫 | <ul style="list-style-type: none"> ・播種・定植方法について学習し、理解する。 ・除草・間引きについて学習し、理解する。 ・中耕・土寄せについて学習し、理解する。 ・土壌生物・土壌微生物について学習し、理解する。 ・病害虫について学習し、有効な防除ができる。 ・肥料の種類・効果・施肥方法などを学習し、理解する。 ・土質と土壌PHについてについて学習し、理解する。 ・生長（草丈、葉数、最大葉身幅、根長、重量等）の観察をする。 ・販売・加工方法について学習し、理解する。 ・収穫方法について学習し、適切な時期に収穫ができる。 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | 10 | 8 | | | | | |
| | 11 | 8 | | | | | |
| | 12 | 2 | | | | | |
| 3 | 1 | 6 | 学校農業クラブ GAP SDGs 堆肥散布 | 目的、活動内容、組織、プロジェクト学習等について学習し、理解する。 GAPについて学習し、理解する。 SDGsについて学習し、理解する。 堆肥の散布を行い、来年度の畑の準備について学習し、理解する。 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | 2 | 8 | | | | | |
| | 3 | 2 | | | | | |

担当者からのメッセージ（学習方法など）

本格的に作物の栽培を行います。農業の楽しさを感じながら栽培の基本を学びましょう。

| | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|---|--------------|
| 科目名 | 総合実習 | | 学年 | 類型・コース | 単位数 |
| | | | 1 | 農業科 | 2単位 (1単位) |
| 学習の目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・作物・野菜・果樹・草花・グリーンライフの5つを教材に、その基本的な知識や栽培の基礎的な技術を習得させる。 ・実践的な実習を通して農産物を生産する喜びを体験させると共に、産業として農業の重要性を理解させる。 | | | | |
| 使用教材 | | | | | |
| 評価 | 評価法 | 出欠状況、提出物、態度、農業クラブ活動（意見発表、農業鑑定競技） | | | |
| | 評価観点の趣旨 | a | 知識・技能 | 各専攻班について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。 | |
| | | b | 思考・判断・表現 | 各専攻班に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養っている。 | |
| | | c | 主体的に学習に取り組む態度 | 各専攻班について自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的取り組んでいる | |
| 上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。 | | | | | |

| 期 | 月 | 時数 | 学習項目・単元 | 学習内容 | 評価方法 | | |
|-----|-----------------------|----|----------------|--|------|------------|---------|
| | | | | | a | b | c |
| 1学期 | 4 5 6 7 8 | 24 | 栽培の基礎 | 総合実習について説明 | 提出物 | 提出物・意見発表 | 出席状況・態度 |
| | | | 栽培に関する基礎的な実習 | 1班～5班に分かれて、野菜、果樹、作物、草花、グリーンライフをローテーションして日常管理作業を行う。 | | | |
| 2学期 | 9・10 11・12 | 30 | 意見発表 | 意見発表クラス予選 | 提出物 | 提出物・農業鑑定競技 | 出席状況・態度 |
| | | | 各専攻班に関する総合的な実習 | 当番実習（時間外） 時間外総合実習（夏休み） | | | |
| 3学期 | 1・2 3 | 16 | 栽培に関する基礎的な実習 | 1班～5班に分かれて実習 ○野菜 主要野菜の栽培 ○作物 米の栽培 ○果樹 主要果樹の栽培管理 ○草花 鉢花の生産・花壇の整備 ○グリーンライフ サツマイモの栽培管理 | 提出物 | 提出物 | 出席状況・態度 |
| | | | 農業鑑定競技 | 農業鑑定競技会 | | | |
| 3学期 | 1・2 3 | 16 | 各専攻班に関する総合的な実習 | 次年度の圃場整備 | 提出物 | 提出物 | 出席状況・態度 |
| | | | 各専攻班に関する総合的な実習 | 専攻班分けの説明 各専攻班に分かれて管理作業を行う。 | | | |
| 3学期 | 1・2 3 | 16 | 各専攻班に関する総合的な実習 | 当番実習（時間外） 時間外総合実習（春休み） | 提出物 | 提出物 | 出席状況・態度 |
| | | | 各専攻班に関する総合的な実習 | 当番実習（時間外） 時間外総合実習（春休み） | | | |

※ 時間外総合実習については、各専攻班の農繁期の時期を考慮に入れ、適切に配当していく。（14時間程度）

担当者からのメッセージ（学習方法など）

「総合実習」は、農業科の専攻班を詳しく体験することができます。定期考査がないので、毎回の実習に取り組む態度や提出物が重要となります。各専攻班の基礎的な知識を学び、基本的な作業技術を習得すると共に、一つ一つの作業の重要性を理解してください。

| | | | | | | | | |
|---|--|----------------------------|---------------|---|--------|--|-----|-----|
| 科目名 | 農業と情報 | | 学年 | 1 | 類型・コース | | 単位数 | 2単位 |
| 学習の目標 | 情報および情報技術を活用するための知識と技能を習得し、社会における情報化の意義や役割を理解させ、情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。 | | | | | | | |
| 使用教材 | 教科書：農業と情報(実教出版) 副教材：日本語ワープロ検定試験 模擬問題集 3・4級編(日本情報処理検定協会) 情報処理技能検定試験(表計算)模擬問題集 3・4級編(日本情報処理検定協会) | | | | | | | |
| 評価 | 評価法 | 定期考査、小テスト、提出プリント、発表で評価します。 | | | | | | |
| | 評価観点の趣旨 | a | 知識・技能 | 情報と情報技術にかかわるシステムを理解し、それに対応できる技術を身につける。また、情報化が進む社会の特質を知り、社会と人間のかかわりについて理解している。 | | | | |
| | | b | 思考・判断・表現 | 課題を教科「情報」の視点で捉え、課題の発見と解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。 | | | | |
| | | c | 主体的に学習に取り組む態度 | 情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し、改善しようとしている。 | | | | |
| 上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)および評点(1~10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)および評定(1~5の5段階)にまとめます。 | | | | | | | | |

3, 年間計画

| 期 | 月 | 時数 | 学習項目・単元 | 学習内容 | 評価方法 | | |
|---|----|----|---|--|-----------------------------------|-----------------------------------|----------------------------|
| | | | | | a | b | c |
| 1 | 4 | 6 | ○情報の意義と役割 ・インターネット・SNS ・メディアリテラシー | ○情報の特徴・性質を理解し、個人情報 の取り扱いや著作権に気を つけて情報を活用できる。 | 定期 考査 ・ プ リ ン ト | 定期 考査 ・ 小 テ ス ト | 授 業 フ ァ イ ル |
| | 5 | 8 | ○文書作成 ・ワープロソフトの基本操作 | ○キーボードによる文字入力 ・変換等が速く正確にできる。 | | | |
| | 6 | 8 | ・ワープロ検定(3・4級)取得に向けた文書編集 技術の習得 | ○ワープロ検定の合格を目指す。 | | | |
| 2 | 7 | 4 | ○プレゼンテーション ・プレゼンテーションソフトの基本操作 | ○情報を相手にわかりやすく正確に 伝えることができる。 | 定期 考査 ・ プ リ ン ト | 定期 考査 ・ 小 テ ス ト | 授 業 フ ァ イ ル |
| | 9 | 8 | ・プレゼンテーションソフトの活用 | ○プロジェクト学習に活用できる力 をつける。 | | | |
| | 10 | 8 | | | | | |
| | 11 | 8 | | | | | |
| 3 | 12 | 4 | ○表計算ソフトの機能と基本操作 ・表計算ソフトの基本操作 | ○情報を正しく分析し、効率的に編 集できるようになる。 | 定期 考査 ・ プ リ ン ト | 定期 考査 ・ 小 テ ス ト | 授 業 フ ァ イ ル |
| | 1 | 6 | ・いろいろな関数の利用 | ○情報を視覚的にわかりやすく表 示できる。 | | | |
| | 2 | 8 | ・グラフの利用とその特徴・使い分け ・プログラミングの作成 | ○プロジェクト学習に活用できる力 をつける。 | | | |
| | 3 | 2 | ○スマート農業の理解 | ○農業分野でICT やAIなどの最先 端技術を理解する。 | | | |

担当者からのメッセージ(学習方法など)

2分割して実施する。ワープロ・表計算・プレゼンソフト・プログラミングを利用して、基礎的な操作の確認をしながら、実際に活用できるように反復練習をする。

| | | | | | | | | |
|---|---|----------------------|---------------|--|--------|--|-----|-----|
| 科目名 | 野菜 | | 学年 | 1 | 類型・コース | | 単位数 | 2単位 |
| 学習の目標 | 科目・農業と環境とリンクさせ、実践的・体験的な学習活動を通じて、農業の見方・考え方を働かせ、野菜の生産から消費、経営までの仕組みと野菜の利用形態を理解させる。 | | | | | | | |
| 使用教材 | 教科書：「実教」野菜 副教材： | | | | | | | |
| 評価 | 評価法 | 定期考査・レポート・学習のまとめプリント | | | | | | |
| | 評価観点の趣旨 | a | 知識・技能 | 野菜の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。 | | | | |
| | | b | 思考・判断・表現 | 野菜の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養っている。 | | | | |
| | | c | 主体的に学習に取り組む態度 | 野菜の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的取り組んでいる | | | | |
| 上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。 | | | | | | | | |

| 期 | 月 | 時数 | 学習項目・単元 | 学習内容 | 評価方法 | | |
|---------|----------|----|-------------------|---|------|-----------|------------|
| | | | | | a | b | c |
| 1 学期 | 4・5 | 10 | 野菜生産の役割と動向 | <ul style="list-style-type: none"> 野菜の種類と特徴 野菜の消費 野菜の生産と供給 野菜の安全性 | 定期考査 | 定期考査・レポート | レポート学習のまとめ |
| | 5・6 | 14 | 野菜の生育特性と栽培環境の調節技術 | <ul style="list-style-type: none"> 野菜の生育と生理 野菜の生育 種子と発芽 茎と葉の成長 光合成のしくみと物質の生産 果菜類の花芽分化と果実の発育 | | | |
| 2 学期 | 9 | 6 | 野菜の生育特性と栽培環境の調節技術 | <ul style="list-style-type: none"> 葉菜類の花芽形成と抽だい 根の発達と肥大 休眠 | 定期考査 | 定期考査・レポート | レポート学習のまとめ |
| | 10 | 12 | | <ul style="list-style-type: none"> 野菜の栽培環境と生育調節 光・温度・湿度・風、ガス・地下部の環境とその調節 合理的作付けと輪作 | | | |
| | 11 | 12 | | <ul style="list-style-type: none"> 人工環境における栽培技術 露地栽培 施設を利用した栽培 養液栽培 植物工場 | | | |
| 3 学期 | 1・2 3 | 16 | 野菜の育苗 | <ul style="list-style-type: none"> 育苗の目的と方法 育苗の意義と良苗の条件 育苗・苗生産の歴史と現状 野菜苗の育苗方法 育苗技術の実際と方法 | 同上 | 同上 | 同上 |

担当者からのメッセージ（学習方法など）

農業と環境で学ぶ、栽培学習についてこまめに記録をとり、その内容を野菜の授業とリンクさせながら、学習活動を行うと、より理解が深まると思われます。

[農業科]

| | | | | |
|-----|------|-----|--------|--|
| 令和 | 科目名 | 単位数 | 学科・学年 | |
| 4年度 | 課題研究 | 2 | 農業科 2年 | |

1, 学習の到達目標

| | |
|------------|--|
| 学習の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・課題を設定し、課題解決に向けての手順・方法など問題を解決できる能力を身に付けさせる。 ・先輩のプロジェクト学習を手伝い実験実習を主体とした学習を身につける。 |
| 使用教科書・副教材等 | |

2, 評価の観点

| | | 日誌 | 知識・技術 | 態度 | 出欠 | 科目による評価規準 |
|------|----------|----|-------|----|----|-------------------------|
| 評価観点 | 関心・意欲・態度 | ○ | | ◎ | ◎ | ・出欠状況、提出物、技術、態度を特に重視する。 |
| | 思考・判断・表現 | ○ | | | | |
| | 技能 | | ◎ | | | |
| | 知識・理解 | ◎ | | | | |

3, 年間計画

| 月 | 週 | 配当時間 | 学習項目 | 学習到達目標 | 学習の方法 |
|----|---|------|---------------|--|-------|
| 4 | 3 | 6 | プロジェクト学習について | <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト学習について理解する。 ・計画立案の重要性を理解する。 ・プロジェクト学習において、資料収集・実験計画方法を知る。 | 講義 |
| 5 | 4 | 8 | プロジェクト学習の導入 | | 実習 |
| 6 | 4 | 2 | プロジェクト学習の展開 | | 実習 |
| | | 2 | プロジェクト学習の展開 | | 実習 |
| 7 | 1 | 2 | プロジェクト学習の展開 | | 実習 |
| | | 2 | プロジェクト学習の展開 | | 実習 |
| | | 2 | プロジェクト学習の展開 | | 実習 |
| 9 | 4 | 2 | プロジェクト学習の展開 | | 実習 |
| | | 2 | プロジェクト学習の展開 | | 実習 |
| 10 | 4 | 2 | プロジェクト学習の展開 | | 実習 |
| | | 2 | プロジェクト学習の展開 | | 実習 |
| 11 | 4 | 2 | プロジェクト学習の展開 | | 実習 |
| | | 2 | プロジェクト学習の展開 | 実習 | |
| 12 | 1 | 2 | プロジェクト学習の展開 | 実習 | |
| 1 | 3 | 2 | プロジェクト学習の展開 | 実習 | |
| | | 2 | プロジェクト学習のまとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容をまとめ、課題を発見する。 ・今年度の反省をふまえて来年度の計画を立てる。 ・計画を実施するための準備をする。 | 実習 |
| 2 | 4 | 2 | プロジェクト学習の計画立案 | | 講義 |
| | | 2 | プロジェクト学習への準備 | | 実習 |
| 3 | 1 | 2 | | | |

| | | | | |
|-----------|-------------|--------------|-------------|--|
| 令和 4年度 | 科目名 総合実習 | 単位数 2 (1) | 学科・学年 2年 | |
|-----------|-------------|--------------|-------------|--|

1, 学習の到達目標

| | |
|------------|--|
| 学習の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・作物・野菜・果樹・草花・グリーンライフの5つの専攻班に分かれ、知識・技術の深化をはかる。 ・実習を通して農産物を生産する喜びを体験させると共に、産業として農業の重要性を理解させる。 |
| 使用教科書・副教材等 | |

2, 評価の観点

| | | 日誌 | 知識・技術 | 態度 | 出欠 | 科目による評価規準 |
|----------|----------|----|-------|----|----|--|
| 評価 観点 | 関心・意欲・態度 | ○ | | ◎ | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> ・出欠状況、提出物、技術、態度を特に重視する。 ・農業クラブ活動（農業鑑定競技、意見発表） |
| | 思考・判断・表現 | ○ | | | | |
| | 技能 | | ◎ | | | |
| | 知識・理解 | ◎ | | | | |

3, 年間計画

| 月 | 週 | 配 当 時 間 | 学習項目 | 学習到達目標 | 学習の方法 | |
|----|---|------------------|---|--|--|--------------|
| 4 | 3 | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・野菜、果樹、作物、草花、グリーンライフの各専攻班に分かれ、専攻別実習を行う。 ・意見発表クラス予選 | <ul style="list-style-type: none"> ・作物・野菜・果樹・草花・グリーンライフの5つの専攻班に分かれ、基礎基本を習得するとともに、専門深化をはかる。 ・クラス全員の前で意見を発表する。 | 実習 | |
| 5 | 4 | 8 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・放課後の当番で責任感を高める ・事前学習および、鑑定競技会を通して農業に関する基礎的知識を習得する。 | 発表 |
| 6 | 4 | 8 | | | | 実習 展示物を写す |
| 7 | 1 | 2 | ② 当番実習（時間外） | <ul style="list-style-type: none"> ○野菜 播種、苗の定植、収穫調整などの基本的作業ができる。計画的栽培計画ができる。 ○作物 稲の苗栽培、定植、各種作業機器の操作、栽培管理、収穫調整作業ができる。 ○果樹 梨、桃、柿などの剪定、受粉、摘果、袋掛け収穫調整ができる。 ○草花 播種、鉢上げなど鉢物栽培の基本作業ができる。栽培した鉢花で計画的に植栽を行うことができる。 ○グリーンライフ サツマイモの定植、栽培管理ができる。交流学习の一環で地域児童にサツマイモ掘りの指導ができる。校内販売所の運営ができる。 | 実習 | |
| 8 | | ⑧ | 時間外総合実習 休業中の圃場管理 | | 実習 | |
| 9 | 4 | 8 | 野菜：野菜の栽培管理、販売 作物：稲作栽培、農業機械の操作 果樹：果樹の栽培管理、販売 草花：栽培、花壇管理 グリーンライフ：サツマイモの栽培、地域児童との交流、販売所の運営 | | 実習 | |
| 10 | 4 | 8 | ② 当番実習（時間外） | | 実習 | |
| 11 | 4 | 8 | | | | |
| 12 | 1 | 2 | ④ 時間外当番実習 休業中の圃場管理、作付け計画 | | 実習 | |
| 1 | 3 | 6 | | | | |
| 2 | 4 | 8 | | | | |
| 3 | 1 | 2 | ① 当番実習（時間外） | | 実習 | |

※時間外総合実習については、各専攻班の繁忙期の時期を考慮に入れ、適切に行う（14時間程度）

| | | | | |
|-----------|-----------------|----------|-----------------|--|
| 令和 4年度 | 科目名 農業機械(選択) | 単位数 2 | 学科・学年 農業科2年生 | |
|-----------|-----------------|----------|-----------------|--|

1, 学習の到達目標

| | |
|------------|--|
| 学習の到達目標 | 農業の機械化の意義を理解し、人間の過重な労働から解放して、農作業の能率を高めていることを理解する。 農業機械を知るために、原動機について詳しく理解する必要があるので、ガソリン及びディーゼルエンジンを中心に作動原理と安全操作を学ぶ。トラクターを中心に作業機の構造・利用と安全について学習する。 |
| 使用教科書・副教材等 | 農業機械 (実教出版) |

2, 評価の観点

| | | | | | | |
|----------|----------|------|-------|-------|------|--------------------------------------|
| | | 定期考査 | 授業の取組 | ノート提出 | 課題提出 | 科目による評価規準 |
| 評価 観点 | 関心・意欲・態度 | | ◎ | ◎ | | ○定期考査、授業中の取り組みの様子、及び提出物の提出状況を特に重視する。 |
| | 思考・判断・表現 | ○ | ○ | | | |
| | 技能 | | | | ○ | |
| | 知識・理解 | ◎ | ○ | ○ | | |

3, 年間計画

| 月 | 週 | 配当 時間 | 学習項目 | 学習到達目標 | 学習の方法 |
|----|---|----------|--------------------|--|--------------------|
| 4 | 3 | 6 | 農業機械の歴史と意義 | 農作業の発達の歴史と農業機械の役割を理解する。 | 講義 |
| 5 | 4 | 8 | 農業機械の安全管理と区分 | 農業機械の取扱上の注意点・安全な取扱方法を学び、区分・分類を理解する。 | 講義 |
| 6 | 4 | 8 | ガソリンエンジンの構造と働き | 4サイクルガソリンエンジンの構造と働きを各装置ごとに学び、理解する。 本体、ピストン、シリンダー、燃料系統、気化器、点火装置、点火コイル、点火プラグ、冷却装置(空冷式・水冷式)、潤滑装置、吸排気装置について理解する | 講義 実物演示 期末考査 |
| 7 | 1 | 2 | | | |
| 9 | 4 | 8 | ディーゼルエンジンの構造と働き | 4サイクルディーゼルエンジンの構造と働きを各装置ごとに学び、理解する。 | 講義 実物演示 中間考査 |
| 10 | 4 | 8 | | | |
| 11 | 4 | 8 | | 燃焼室の種類、過給装置、燃料系統、燃料噴射弁、燃料噴射ポンプ、調速機、について理解する | 講義 実物見学 |
| 12 | 1 | 2 | エンジンの取扱 | ガソリンエンジンの取扱ができる ディーゼルエンジンの取扱ができる | 実物見学 期末考査 |
| 1 | 3 | 6 | その他のエンジン・原動機の構造と働き | 2サイクルエンジンの構造と働き・特徴を理解する ロータリーエンジン、電動機について理解を深める | 講義 実物見学 |
| 2 | 4 | 8 | 作業機とトラクターの構造と働き | トラクター・作業機の構造と働き・特徴を理解する。 トラクターの運転が安全にできる | 講義 実物見学 |
| 3 | 1 | 2 | その他の作業機の構造と働き | その他の作業機について構造と働き・特徴を理解する。 | 講義 学年末考査 |

| | | | | |
|-----------|-----------------|----------|-----------------------|--|
| 令和 4年度 | 科目名 農業経済(選択) | 単位数 2 | 学科・学年 2年農業科専門科目選択生 | |
|-----------|-----------------|----------|-----------------------|--|

1, 学習の到達目標

| | |
|------------|---|
| 学習の到達目標 | ・農業および食品産業の経済活動に関する知識と技術を習得させ、流通及び市場の原理を理解させるとともに、流通の改善を図る能力と思考を育む。 |
| 使用教科書・副教材等 | 農業経済(コロナ) |

2, 評価の観点

| | 定期考査 | 授業の取組 | 提出物 | 出席状況 | 科目による評価規準 |
|------|----------|-------|-----|------|--|
| 評価観点 | 関心・意欲・態度 | ◎ | ◎ | ○ | ・学習内容について自らが進んで授業に対して取り組み、いかに流通・市場の流れを理解できる知識や思考を習得することができたかを見る。 |
| | 思考・判断・表現 | ○ | ○ | | |
| | 技能 | ○ | ○ | | |
| | 知識・理解 | ◎ | | | |

3, 年間計画

| 月 | 週 | 配当時間 | 学習項目 | 学習到達目標 | 学習の方法 |
|----|---|--|---|---|-------|
| 4 | 3 | 6 | 農業と国民経済、世界の食糧自給 | <ul style="list-style-type: none"> ・農産物の自給率の現状とそれらもっている意味を考慮することができる。 ・環境と調和のとれた生産活動の大切さを認識できる。 ・関連産業や地域産業との関係が認識できる。 ・農業政策や日本農業の方向性について理解を深めることができる。 ・農家の動向、各農産物の生産の動向の理解を深めることができる。 ・GAP取得の背景を知る。 ・GAPのシステムについて理解する。 ・GAPの重要性について考える。 | 講義 |
| | 5 | 4 | ○農業の社会的経済的役割について現状を学習する。 | | |
| | 6 | 4 | 2 a: 食料供給 食料の安定的・継続的供給と自給率について現状を作目別に学習する。 | | |
| | | 2 | 2 b: 公益的機能 環境と調和した適切な方法に伴う、国土・環境保全と農業の生産活動について学習する。 | | |
| | 7 | 1 | 2 c: 経済的機能 農業を通してそれに関係する経済活動が地域経済の基盤産業になっていることを学習する。 国際化の中の農業生産の役割と特徴 ○わが国の食料生産と国際化における日本農業の現状を学習する。 ○貿易自由化の中の農業政策、輸入の推移・現状を理解させる。 ○農業生産の特徴・生産の動向を知る。 ○食料供給の動向で、農業生産の動向について学習を深めさせる。 「統計資料を参考に学習する」 | | |
| 2 | | | 2 「統計資料を参考に学習する」 | 期末考査 | |
| 9 | 4 | 2 農業と協同組織 ○農業に関係する農業協同組合(JA)を知る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・協同組合の基本的な考えを理解し、利用方法などについて理解を深めることができる。 ・企業形態の理解を深めることができる。 ・GAP取得への企業の取り組みを学ぶ ・農業の取り囲む経済的な背景を知る | 講義 | |
| | | 3 ・JAの活動目的、組織、種類について現状を理解する。(全国、滋賀県内) | | | |
| | | 3 ・事業活動の目的・内容・方法について 指導事業、販売事業、購買事業、信用事業、共済事業、利用・加工事業、厚生事業、その他 | | | 中間考査 |
| 10 | 4 | 3 ・農業・食品産業の企業形態について 農業生産組織 | | 講義 | |
| | | 2 ・農業生産組織の目的、種類、活動、法人化について | | | |
| 11 | 4 | 4 農業金融と保険 | | 期末考査 | |
| | | 4 ・農業金融の役割・種類・融資制度、補償制度について | | | |
| 1 | 3 | 3 全国の農業生産と滋賀県の農業生産 ○全国各地での農業の状況を調査して調べる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・現状をまとめ統計資料が作成できる ・統計資料を参考に状況を各自でまとめる。 ・県内のGAP取得農家について調べ、考える。 | 演習 | |
| | | 3 ○各都道府県の農産物の生産の状況を調査して調べる。 | | | 演習 |
| | | 3 ○滋賀県内の農産物の生産の状況を調査して調べる。 | | | 演習 |
| 2 | 4 | 3 ○両者を比較する。 | | 学年末考査 | |
| | | 3 ○各々でまとめさせる。 | | | |
| 3 | 1 | 2 | | | |

| | | | | |
|-----------|-----|-----|--------|--|
| 令和 4年度 | 科目名 | 単位数 | 学科・学年 | |
| | 果樹 | 2 | 農業科 2年 | |

1. 学習の到達目標

| | |
|------------|---|
| 学習の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 果樹の栽培と経営に必要な知識と技術を習得し、果樹の特性や栽培に適した環境を理解し、品質の生産性の向上を図る能力と態度を育てる。 環境に配慮した果樹栽培に向け、生産者として技術と態度を育む。 |
| 使用教科書・副教材等 | 果樹（実教出版） |

2. 評価の観点

| | | 定期考査 | 授業態度 | 提出物 | 出席 | 科目による評価規準 |
|----------|----------|------|------|-----|----|---|
| 評価 観点 | 関心・意欲・態度 | | ◎ | ◎ | ○ | 授業に対する積極性、果樹について理解を深め、知識や思考力を習得することができたか評価する。 |
| | 思考・判断・表現 | ○ | | ○ | | |
| | 技能 | | ○ | ○ | | |
| | 知識・理解 | ◎ | | | | |

3. 年間計画

| 月 | 週 | 日 | 学習項目 | 学習到達目標 | 学習の方法 |
|----|---|---|--|-----------------------------------|-------------|
| 4 | 3 | 6 | 果樹の種類と果実の利用 | 果樹にはどのようなものがあるか | 講義 |
| 5 | 4 | 8 | 果樹の種類と分類 | どのように分類されるのかを理解 | |
| 6 | 4 | 8 | 自然分類・人為分類 果樹の構造 | 果樹の構造について学ぶ | 講義 |
| 7 | 1 | 2 | 偽果・真果等 果樹栽培の動向 | 世界でどれだけの果樹が生産・消費されているのかを知る | 講義 |
| | | | 世界の生産動向 日本の生産動向 | 生産量を踏まえ、これからどのような果樹生産をしていくべきかを考える | |
| | | | 果樹の輸入と輸出 果樹栽培の将来 | | |
| 9 | 4 | 8 | 果樹の生育と生理 | 果樹の生理、生態について基礎的な事柄を理解する。 | 観察 |
| | | | 果樹の生育とその一生 根・枝・葉の成長 等 | | 期末考査 |
| 10 | 4 | 8 | 果樹栽培と環境 | 果樹栽培を行うにあたり、環境条件と栽培できる果樹について学ぶ | 講義 |
| | | | 生育と環境要因 | | |
| 11 | 4 | 8 | 生育と土壌 | 果樹を栽培するための土壌について学ぶ | 観察・演習 |
| | | | 苗木の生育 | 良い苗木とは何かを知る | |
| 12 | 1 | 2 | 良い苗木の条件 接ぎ木苗の育成 挿し木苗の育成 | 接ぎ木・挿し木を作るための方法を知る | 中間考査 講義 |
| | | | 開園と更新 | 実際に果樹園を開園する場合の方法について学ぶ | |
| | | | 園地の立地条件 園地の造成 開園の実際 | | 講義 演習 |
| | | | 植え付けの実際 改植による更新 | 古い果樹を更新する方法について知る | |
| 1 | 3 | 6 | 土壌管理 | 栽培している状態での土壌の管理方法について学ぶ | 期末考査 |
| 2 | 4 | 8 | マルチ法・草生法・清耕法 | | 講義 |
| 3 | 1 | 2 | 深耕と有機物の施用 | 果樹園での元肥の施肥方法を学ぶ | |
| | | | 結果習性と整枝・せん定 仕立て方と整枝 せん定の時期・種類・方法 | 果樹園の剪定について学ぶ 枝の各部位の名称を学ぶ | 講義 学年末考査 |
| | | | 病害虫の防除 | 病害虫の防除、生理障害について理解する。 | |
| | | | 病害虫の特性、防除方法、生理障害、防止方法について | | |

| | | | | |
|-----------|---------|-----|--------|--|
| 令和 4年度 | 科目名 | 単位数 | 学科・学年 | |
| | グリーンライフ | 2 | 農業科 2年 | |

1, 学習の到達目標

| | |
|------------|--|
| 学習の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・交流や余暇活動の展開に必要な知識と技術を習得する。 ・農業や農村の持つ多面的な機能と対人サービスの特性を理解するとともに、交流、余暇活動を導入した経営の改善を図る能力と態度を養う。 |
| 使用教科書・副教材等 | グリーンライフ (実教) |

2, 評価の観点

| 評価 観点 | | 定期考査 | 授業の取組 | ノート提出 | 課題提出 | 科目による評価規準 |
|----------|--|----------|-------|-------|------|-----------|
| | | 関心・意欲・態度 | | ◎ | ○ | ◎ |
| 思考・判断・表現 | | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ・ノート整理と提出 |
| 技能 | | | | ◎ | ○ | ・調べ学習 |
| 知識・理解 | | ◎ | | ○ | ○ | |

3, 年間計画

| 月 | 週 | 日 | 学習項目 | 学習到達目標 | 学習の方法 |
|----|---|---|---|--|------------|
| 4 | 3 | 6 | 人間生活とグリーンライフ | <ul style="list-style-type: none"> ・農業、農村体験を活かした対人サービスの特性を理解する。 ・過疎化・鳥獣害被害、ヒートアイランドなど現代の課題と対策について理解する。 | 講義 |
| 5 | 4 | 8 | グリーンライフとは | | |
| 6 | 4 | 8 | 農山村と都市の現状と変化 | | |
| 7 | 1 | 2 | グリーンツーリズムの取り組み 都市と農山村の共生・交流 | <ul style="list-style-type: none"> ・グリーンツーリズムの企画、運営に必要な知識技術を習得する。 | 講義 |
| | | | 特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ・グリーンツーリズムにおける参加者の受け入れの在り方について理解する。 | 講義 |
| | | | 効果と課題 | | 期末考査 |
| | | | 他分野との連携 | | 講義 |
| 9 | 4 | 8 | 市民農園 市民農園とは 世界や日本における事例 | <ul style="list-style-type: none"> ・市民農園の歴史や特徴を学び、農業・農村生活の向上について理解する。 | 講義 |
| 10 | 4 | 8 | 観光農園、直売所 観光農園・直売所とは 企画、開園と運営 | <ul style="list-style-type: none"> ・観光農園、直売所のサービスに関する知識を習得する。 | 講義 中間考査 |
| | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・農業、農村の持つ機能の特性と対人サービスについて理解する。 | 講義 |
| 11 | 4 | 8 | 農林業・農山村の魅力と地域づくり 農業の多面的機能 農林業の魅力 身近な地域資源の発見と活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・農業体験参加者に援助と応接を行う実践力を身につける。 | 講義 |
| 12 | 1 | 2 | 農山村の資源と景観の特質 | <ul style="list-style-type: none"> ・農業農村が持つ機能の活用に関する知識と技術を習得する。 | 期末考査 講義 |
| 1 | 3 | 6 | 農家民宿 農家民宿とは 世界や日本における事例 | <ul style="list-style-type: none"> ・農家民宿が持つ機能の活用に関する知識と技術を習得する。 | 講義 |
| 2 | 4 | 8 | 農家民宿の運営 | | 講義 |
| | | | 商品開発 商品開発とは | <ul style="list-style-type: none"> ・商品開発に関する基本知識を定着させる。 | 期末考査 |
| 3 | 1 | 2 | 商品開発の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・販売促進のための技術を習得する。 | 講義 |

| | | | | |
|-----------|-----------|----------|-----------------|--|
| 令和 4年度 | 科目名 草花 | 単位数 2 | 学科・学年 農業科・2年 | |
|-----------|-----------|----------|-----------------|--|

1, 学習の到達目標

| | |
|------------|--|
| 学習の到達目標 | 草花の生産と経営に必要な知識と技術を習得し、草花の特性や生産に適した環境を理解するとともに、品質と生産性の向上及び経営の改善を図る能力と態度を育む。 |
| 使用教科書・副教材等 | 草花 (実教出版) |

2, 評価の観点

| | 評価項目 | 考查 | 授業態度 | 提出物 | 科目による評価基準 |
|----------|----------|----|------|-----|--------------------------------------|
| 評価 観点 | 関心・意欲・態度 | | ◎ | ◎ | ○定期考查、授業中の取り組みの様子、及び提出物の提出状況を特に重視する。 |
| | 思考・判断・表現 | ○ | ○ | | |
| | 技能 | | | ◎ | |
| | 知識・理解 | ◎ | ○ | ○ | |

3, 年間計画

| 月 | 週 | 相当時間 | 学習項目 | 学習到達目標 | 学習の方法 |
|----|---|------|---|---|-------------|
| 4 | 3 | 6 | 第1章草花生産と消費の動向 草花園芸の特徴 草花生産と消費の動向 | ・安全な草花の生産から消費までの仕組みを理解する ・草花の流通の仕組みを理解する | 講義 |
| 5 | 4 | 8 | | | |
| 6 | 4 | 8 | | | |
| 7 | 1 | 2 | 第2章生活と草花の利用 草花の多面的利用 | ・生活や地域における草花の多面的な利用について理解する | 講義 |
| | | | 園芸デザイン | ・草花の装飾特性を生かした利用方法を理解する。 | 講義 |
| 9 | 4 | 8 | 第3章草花の特徴と栽培技術 草花の生育と環境 品種改良と繁殖 | ・生育環境をりかいする ・品種の重要性と品種改良の目的を理解する | 講義 |
| | | | 草花の生育と栽培技術 | ・草花の生育環境と適切な栽培技術を理解する | 期末考查 講義 |
| | | | 生産施設と栽培環境の調節 | ・温室やハウスの施設・設備と資材の特徴を理解する | 講義 |
| 10 | 4 | 8 | 第4章切り花生産 切り花生産の特色 切り花の品質保持 一・二年草の切り花 | ・切り花の園芸的分類や栽培の特徴について理解する | 講義・観察 |
| | | | 宿根草の切り花 球根の切り花 花木の切り花 | | 中間考查 |
| 12 | 1 | 2 | 第5章鉢物の生産 鉢物の生産の特色 鉢物の生産資材と商品化技術 | ・鉢ものの経営的特色・栽培管理の特色を理解する | 講義・観察 |
| 1 | 3 | 6 | 鉢花 | | 期末考查 |
| 2 | 4 | 8 | 観葉植物 | ・観葉植物の繁殖方法を理解する | 講義・観察 |
| | | | 洋ラン | ・ラン類の生態と特徴や生育の特性を理解する | 講義 |
| 3 | 1 | 2 | 第6章花壇用草花生産 花壇用草花生産の特色 花壇用草花の栽培 | ・花壇用草花生産の特色を理解する ・形態や用途に応じた花壇用草花の種類を理解する | 講義 講義 |
| | | | 第7章草花経営の改善 生産と流通の改善 経営改善とプロジェクト | ・草花の生産・流通・販売上の問題点を学び改善策を考えられるようになる | 学年末考查 講義 |

| | | | | |
|-----------|-------------|-----|--------|--|
| 令和 4年度 | 科目名 課題研究 | 単位数 | 学科・学年 | |
| | | 2 | 農業科 3年 | |

1, 学習の到達目標

| | |
|------------|--|
| 学習の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・1, 2年で学習した、栽培に関する基礎知識をもとに、実践に根ざした専門的な知識をより深く学習させる。 ・課題を自ら設定し、正確な判断の下に問題を解決できる能力を身に付けさせる。 ・プロジェクト学習で実験実習を主体とした学習を行い、その成果を発表する。 |
| 使用教科書・副教材等 | |

2, 評価の観点

| | | | | | | |
|----------|----------|----|-------|----|----|--------------------------------------|
| 評価 観点 | 関心・意欲・態度 | 日誌 | 知識・技術 | 態度 | 出欠 | 科目による評価規準 ・出欠状況、提出物、技術、態度を特に重視する。 |
| | 思考・判断・表現 | ○ | | ◎ | ◎ | |
| | 技能 | | ◎ | | | |
| | 知識・理解 | ◎ | | | | |

3, 年間計画

| 月 | 週 | 配当 時間 | 学習項目 | 学習到達目標 | 学習の方法 |
|----|---|----------|--|---|----------------|
| 4 | 3 | 24 | プロジェクト学習のテーマ設定 | <ul style="list-style-type: none"> ・計画立案の重要性を理解する。 ・プロジェクト学習において、資料収集・実験計画方法を身につける。 ・プレゼンテーションの方法を身につける。 | 実習・実験 講義・演習 |
| 5 | 4 | | プロジェクト学習の展開 | | |
| 6 | 4 | | 先輩のプロジェクト学習のまとめ、おさらい | | |
| 7 | 1 | | プロジェクト学習の展開 先輩のプロジェクト学習のまとめ プロジェクト発表の練習 プロジェクト学習の展開 | | |
| 9 | 4 | 28 | プロジェクト学習の展開 | | 実習・実験 講義・演習 |
| 10 | 4 | | | | |
| 11 | 4 | | | | |
| 12 | 1 | | | | |
| 1 | 3 | 6 | プロジェクト学習の成果まとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト学習の成果から、考察力を身につける。 | 実習・実験 講義・演習 |

| | | | | |
|-----------|-------------|--------------|-------------|--|
| 令和 4年度 | 科目名 総合実習 | 単位数 2 (1) | 学科・学年 3年 | |
|-----------|-------------|--------------|-------------|--|

1, 学習の到達目標

| | |
|------------|--|
| 学習の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・1, 2年で学習した栽培に関する基礎知識をもとに、専門的な知識・技術をより深く習得させる。 ・実験実習を主体とした学習を行う。 ・正確な判断力を養い、計画的な栽培を行い、経営能力を養う。 |
| 使用教科書・副教材等 | |

2, 評価の観点

| | | 日誌 | 知識・技術 | 態度 | 出欠 | 科目による評価規準 |
|----------|----------|----|-------|----|----|--|
| 評価 観点 | 関心・意欲・態度 | ○ | | ◎ | ◎ | 知識・技術：30点 日誌：30点 態度：40点 合計：100点 |
| | 思考・判断・表現 | ○ | | | | |
| | 技能 | | ◎ | | | |
| | 知識・理解 | ◎ | | | | |

3, 年間計画

| 月 | 週 | 配 時間 | 学習項目 | 学習到達目標 | 学習の方法 |
|----|---|---------|---|--|------------------|
| 4 | 3 | 6 | ○作物、野菜、果樹、草花 グリーンライフの5部門より 1部門を選択し通年専門的に学習を行う | ・各部門において、専門的な基礎な知識を学び、基本的な作業技術を習得する。 | 春季休業中 実習 (1回) |
| 5 | 4 | 8 | | | |
| 6 | 4 | 8 | | | |
| 7 | 1 | 2 | ○専攻実習 作物：稲作栽培 農業機械の操作等 野菜：野菜の管理 収穫物の販売 | 各専攻班の計画に基づいて栽培管理をし、調査記録し専門知識を高める。 | 実験・実習 |
| 8 | | ② | ○当番実習 (時間外) | | |
| | | | 果樹：果樹の管理 収穫物の販売 草花：栽培、花壇管理、花の販売 グリーンライフ：さつまいもの管理 地域児童との交流活動 | ○農業に対する自分の考えを口頭で発表し、自己意識を高める。 ○植物・病気・害虫・実験器具・機械などの実物を見て理解する力を高める・ | 演習 |
| | | ⑧ | ○ (時間外総合実習 8時間) | | |
| 9 | 4 | 8 | ○農業クラブ活動 ・意見発表 (クラス発表) ・意見発表 (校内大会) ・農業鑑定競技事前学習 ・農業鑑定競技試験 | | |
| 10 | 4 | 8 | ・プロジェクト発表 (校内代表) ○湖農祭に向けて学科展示物作成 ○各種販売会に向けて出品準備 | ○放課後の当番で責任感を高める | 夏季休業中 実習 (2回) |
| 11 | 4 | 8 | ○各種交流活動 ② ○当番実習 (時間外) | ○休業中の実習で管理や責任感を高める。 | |
| 12 | 1 | 2 | | ○学科展示により各部門の取り組みについて理解する。 | |
| | | | ④ ○ (時間外総合実習) ○当番実習 (時間外) | ○付加価値、特色のある農産物の生産をめざす。 | 冬季休業中 実習1回) |
| 1 | 3 | 6 | 総合実習のまとめ ① ○学習成果をまとめ、論文作成を行う。 当番実習 (時間外) | ○体験入学等で、学習成果を発揮すると共に、表現する力を身につける。 ○放課後の当番で責任感を高める | |
| | | | | ○休業中の実習で管理や責任感を高める。 ○まとめ活動を通じて、科学的な考えを身につける。 | |

※時間外総合実習については、各専攻班の繁忙期を考慮に入れ、適切に配当する。(14時間程度)

| | | | | |
|-----------|-----|-----|--------|--|
| 令和 4年度 | 科目名 | 単位数 | 学科・学年 | |
| | 作物 | 2 | 農業科 3年 | |

1, 学習の到達目標

| | |
|------------|--|
| 学習の到達目標 | 作物の生産と利用・特性について理解する イネ栽培の管理作業、特徴について理解する ムギ類・豆類の栽培方法、特徴、加工食品について理解する |
| 使用教科書・副教材等 | 「作物」 実教出版 |

2, 評価の観点

| | 関心・意欲・態度 | 定期考査 | 授業の取組 | ノート提出 | 課題提出 | 科目による評価規準 |
|----------|----------|------|-------|-------|------|---------------------------|
| 評価 観点 | 思考・判断・表現 | ○ | ○ | ○ | ○ | ・定期考査 ・ノート提出 ・授業の取組 |
| | 技能 | | | ○ | ○ | |
| | 知識・理解 | ◎ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | | | | |

3, 年間計画

| 月 | 週 | 配課 | 学習項目 | 学習到達目標 | 学習の方法 |
|----|---|----|--|--|--------------------|
| 4 | 3 | 6 | 第1章 作物の役割と動向 | 作物の生産と利用における人間生活と作物の 関係、作物の特徴と種類について理解する | 講義 |
| 5 | 4 | 8 | | | |
| 6 | 4 | 3 | 作物とは 作物栽培の動向 | 世界の食糧需給状況と、わが国の作物生産の 動向と課題について理解を深める | |
| | | 2 | | | |
| | | 3 | 古代米の栽培（植付・生育調査） 第2章 作物の特性と栽培技術 | 稲の植付方法と生育調査の方法を理解し、古 代米を栽培する。 | 実習 生育調査 中間考査 |
| 7 | 1 | 2 | 作物の種類と特徴 作物の生育と生理 栽培環境と生育の調節 第3章 イネ 1節 栽培的特性 | 作物の成長と体の仕組み、作物の一生と生活 史を学び、栄養成長と生殖成長の進み方、作 物の利用部位と栽培のポイントを理解する。 栽培環境、品種によって収量・品質に差が出 ることを理解する | 講義 |
| | | | 2節 栽培管理 | 地域の環境と作物生産・耕地の利用、情報の 利用について理解する | 講義 |
| | | | | 稲作の歴史と米の利用について理解する イネの一生と成長過程を理解する | 講義 |
| 9 | 4 | 4 | 古代米の収穫 | 古代米を収穫し、乾燥・調整させる方法を理 解する | 期末考査 実習 |
| | | 4 | 3節 栽培計画と評価 | 栽培環境が生育・収量に及ぼす影響について 理解する | 講義 |
| 10 | 4 | 4 | 4節 農業経営の特性 | 収量調査と食味試験の方法を理解する | 講義 |
| | | 4 | 古代米の収量調査と食味試験 | | 中間考査 |
| 11 | 4 | | 第4章 麦類 | 麦類の特徴と栽培の実際を理解する | 講義 |
| | | 1 | 栽培特性 | | |
| | | 5 | 栽培管理 | | 期末考査 |
| | | 2 | 農業経営の特性 | | |
| 12 | 1 | 2 | 滋賀県における稲作の特徴と転作 | 滋賀県における稲作の特徴と転作の状況を理 解する | 講義 |
| 1 | 3 | | 第5章 トウモロコシ | トウモロコシ類の特徴と栽培の実際を理解す る | 講義 |
| | | 4 | トウモロコシの特徴と栽培の実際 | | |
| | | 1 | 1節 栽培特性 | | |
| | | 2 | 2節 栽培管理 | 豆類の特徴と栽培の実際を理解する | 講義 |
| | | 3 | 3節 栽培計画と評価 | | |
| | | | 第6章 豆類 | | |
| | | 2 | 豆類の特徴と栽培の実際 | | 学年末考査 |

| | | | | |
|-----------|-----|-----|-------|--|
| 令和 4年度 | 科目名 | 単位数 | 学科・学年 | |
| | 野菜 | 2 | 3年 | |

1, 学習の到達目標

| | |
|------------|---|
| 学習の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 代表的な夏野菜および秋冬野菜が栽培できる知識を身につける。また、これからの野菜(農場)の経営に必要な考え方・感覚を身につける。 生活の中で活用できる野菜の知識を身に付ける。 |
| 使用教科書・副教材等 | 野菜 (実教出版) |

2, 評価の観点

| | | 定期考査 | 授業の取組 | ノート提出 | 課題提出 | 科目による評価規準 |
|----------|----------|------|-------|-------|------|---|
| 評価 観点 | 関心・意欲・態度 | | ◎ | ◎ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> 定期考査 ノートおよび課題提出 授業の取組 |
| | 思考・判断・表現 | ◎ | ○ | ○ | ◎ | |
| | 技能 | | ○ | ○ | ○ | |
| | 知識・理解 | ◎ | ○ | ○ | ◎ | |

3, 年間計画

| 月 | 週 | 相当 時間 | 学習項目 | 学習到達目標 | 学習の方法 |
|----|---|----------|--|--|---------------|
| 4 | 3 | 6 | 野菜の生理について | <ul style="list-style-type: none"> 野菜の生理を理解する。 | 講義 |
| 5 | 4 | 8 | 野菜の生育段階による栽培管理について 果菜類の野菜について →トマト・ナス・ピーマン | <ul style="list-style-type: none"> 野菜の生育段階の特徴を理解する。 果菜類の特徴と各野菜の栽培方法を理解する。 家庭菜園で野菜の管理ができる知識を身につけられる。 | 講義 |
| 6 | 4 | 4 | | | 講義 |
| 7 | 1 | 2 | ウリ科の野菜について →キュウリ・カボチャ 夏野菜の収穫について | <ul style="list-style-type: none"> ウリ科野菜の特徴と各野菜の栽培方法と管理方法を理解する。 | 中間考査 講義 |
| 9 | 4 | 8 | 葉菜類の野菜について →ハクサイ・キャベツ・レタス | <ul style="list-style-type: none"> 葉菜類の特徴と各野菜の栽培方法と管理方法を理解する。 | 期末考査 講義 |
| 10 | 4 | 8 | 根菜類の野菜について →ダイコン・ニンジン | <ul style="list-style-type: none"> 根菜類の特徴と各野菜の栽培方法と管理方法を理解する。 | 講義・観察 中間考査 |
| 11 | 4 | 4 | 軟弱野菜について →ホウレンソウ・コマツナなど | <ul style="list-style-type: none"> 軟弱野菜の特徴と栽培方法、管理方法を理解する。 | 講義 |
| | | 4 | | | 講義 |
| 12 | 1 | 2 | イチゴについて | <ul style="list-style-type: none"> イチゴの栽培方法を理解する。 | 期末考査 講義 |
| 1 | 3 | 6 | | | 学年末考査 |

| | | | | |
|-----------|-----|-----|-------|--|
| 令和 4年度 | 科目名 | 単位数 | 学科・学年 | |
| | 果樹 | 2 | 農業科3年 | |

1, 学習の到達目標

| | |
|------------|--|
| 学習の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・果樹の栽培と経営に必要な知識と技術を習得し、果樹の特性や栽培に適した環境を理解するとともに、品質の生産性の向上を図る能力と態度を育てる。 ・環境に配慮した果樹栽培に向け、生産者として技術と態度を育む。 |
| 使用教科書・副教材等 | 果樹（実教出版） |

2, 評価の観点

| | | 定期考査 | 授業態度 | 提出物 | 出席 | 科目による評価規準 |
|----------|----------|------|------|-----|----|---|
| 評価 観点 | 関心・意欲・態度 | | ◎ | ◎ | ○ | 授業に対する積極性、果樹について理解を深め、知識や思考力を習得することができたか評価する。 |
| | 思考・判断・表現 | ○ | | ○ | | |
| | 技能 | | ○ | ○ | | |
| | 知識・理解 | ◎ | | | | |

3, 年間計画

| 月 | 週 | 配当 | 学習項目 | 学習到達目標 | 学習の方法 |
|----|---|----|---|--|-------------------------|
| 4 | 3 | 6 | 果樹の種類と果実の利用 人間生活と果実の生産・消費の推移と動向について 果樹の生長・特徴と各器官の生長について | <ul style="list-style-type: none"> ・果樹生産が人々の健康に直結し、豊かな食生活を提供する社会的役割を担っていることを理解する。 ・果樹の生理、生態について基礎的な事柄を理解する。 | 講義 |
| 5 | 4 | 8 | | | |
| 6 | 4 | 8 | 果樹の栽培管理 栽培の適地、枝の整枝、せん定 土壌管理、施肥 気象条件、土質、地形条件、生物的条件 枝の種類、整枝法と樹形 せん定法の基本、枝の伸び方 低樹高栽培 施肥、土壌管理、施肥、苗木の植付け 施設栽培、高品質果栽培 | <ul style="list-style-type: none"> ・果樹栽培に必要な基本的な作業について理解する。 ・各種果樹の生態を知り今後の管理を理解する。 ・それぞれの果樹についての歴史的な背景、現在の栽培の現状や栽培方法・管理について理解する。 | 講義 中間考査 |
| 7 | 1 | 2 | | | 期末考査 |
| 9 | 4 | 8 | 落葉果樹（カキ等）・常緑果樹（柑橘類等）、つる性果樹（ブドウ等） ・来歴と栽培の現状 生育のすがたと栽培管理 品種 病虫害、生理障害 | <ul style="list-style-type: none"> ・落葉果樹、常緑果樹つる性果樹について、国内の栽培の現状を理解する。 ・着果の様子を理解し、摘果の方法を理解する。 | 講義 観察・演習 |
| 10 | 4 | 8 | 各果樹について 来歴 栽培の現状と将来 栽培の適地と分布 果樹の生理・生態 栽培管理手順・時期・方法 果実の管理作業、時期、作業での諸注意、方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・各果樹の栽培管理について、理解を深め説明できる。 | 講義 中間考査 |
| 11 | 4 | 8 | | 各種果樹の剪定方法を理解する。 | 講義 演習 |
| 12 | 1 | 2 | 樹体の管理作業、時期、作業での注意点、方法 | | 期末考査 |
| 1 | 3 | 6 | 果樹の各品種について 各特性について 各種果樹の枝と芽の状況を観察 病虫害の特性、防除方法、生理障害、防止方法について 果実の流通と経営改善 | <ul style="list-style-type: none"> ・品種の特徴について理解する。 ・花芽の付き方を理解する。 ・病虫害の防除、生理障害について理解する。 ・果実の流通を体系的に理解し知識を深める。 ・果樹の経営知識を学び、経営に対して興味・関心を深める。 | 講義 観察 講義 学年末考査 |

| | | | |
|-----------|-------------|----------|-----------------|
| 令和 4年度 | 科目名 農業経営 | 単位数 2 | 学科・学年 農業科 3年 |
|-----------|-------------|----------|-----------------|

1, 学習の到達目標

| | |
|------------|--|
| 学習の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 世界の農業の中でわが国の農業にはどのような特徴があるのか、また現在の農業経営はどのように行われているのかをあわせて理解する。 今日、農業経営をしていく上で課題とされている点は何か、また、これらを解決していくためにはどのように改善していく必要があるのかなどを総合的に学習する。 |
| 使用教科書・副教材等 | 農業経営（実教出版） |

2, 評価の観点

| 評価 観点 | 関心・意欲・態度 思考・判断・表現 技能 知識・理解 | 定期考査 | 授業の取組 | ノート提出 | 課題提出 | 科目による評価規準 ・定期考査 ・授業態度 ・ノート整理と提出 ・調べ学習 |
|----------|-------------------------------------|------|-------|-------|------|---|
| | | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | |

3, 年間計画

| 月 | 週 | 配当 時間 | 学習項目 | 学習到達目標 | 学習の方法 |
|----|---|----------|--|---|-------|
| 4 | 3 | 6 | 日本と世界の農業 | <ul style="list-style-type: none"> 食料生産と農業経営について今後の農業の考え方を理解する。 国内の農業経営の現状の理解を深める。 人間社会における農業経営の組織化について理解する。 農業が誰によって担われているかを知り、家族経営と会社経営の違いを考える。 農業を経営することの意味をはっきり理解する。 生産組織がどのような役割を果たしているのか知り、なぜ農家の人たちが産地づくりをするのかを考える。また、なぜ法人化が進んでいるのかを理解する。 簿記の意味や要素などを理解し、取引・勘定・仕分けなど、複式簿記の基本を理解する。 複式簿記による、基本的な取引の記帳から決算までの仕組みを理解する。 決算整理を含んだ決算手続きができる。 複式簿記のもつ意味を理解する 農業経営と社会環境の関わりを理解する。 経営診断方法を理解する。 | 講義 |
| 5 | 4 | 8 | 日本と世界の農業の現状 | | 講義 |
| 6 | 2 | 4 | 日本における農業経営の実態と特徴・役割 | | 中間考査 |
| | | | 農業・農村と食料・環境 農業・農村の役割 自然の循環機能を生かした農業 | | 講義 |
| | 2 | 4 | | | 中間考査 |
| | | | 農業経営の組織と運営 農業経営の主体と目標 農業生産の要素 農業経営組織の組み立て | | 講義 |
| 7 | 1 | 2 | | | 期末考査 |
| | | | 集団的取り組みと法人化について 農業経営の組み立て | | |
| 9 | 4 | 8 | 農業経営の会計 簿記の基礎 取引の8要素、結合関係、取引、取引の2面性、貸借平均の原理 | | 講義 |
| 10 | 4 | 8 | 簿記の演習 複式簿記 貸借対照表、損益計算書 農業経営での取引の記帳法 | | 演習 |
| | | | 仕訳帳、元帳、合計残高試算表 | | 中間考査 |
| 11 | 4 | 8 | 固定資産の増価、減価についての計算式 | | 演習 |
| | | | 伝票を用いた処理方法 | | 期末考査 |
| 12 | 1 | 2 | | | 講義 |
| 1 | 3 | 6 | 農業経営の診断と設計 農業経営の診断 農業経営の設計 | | 学年末考査 |

| | | | | |
|-----------|-------------|-----|--------|--|
| 令和 4年度 | 科目名 選択草花 | 単位数 | 学科・学年 | |
| | | 2 | 農業科・3年 | |

1, 学習の到達目標

| | |
|------------|---|
| 学習の到達目標 | ○草花の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、草花の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。 ○2年生までの草花栽培についての基本的事項の習得を基に、草花栽培の実際について各論形式により、理解を深める。 |
| 使用教科書・副教材等 | 草花（実教出版株式会社） |

2, 評価の観点

| | | 定期考査 | 授業の取組 | ノート提出 | 課題提出 | 科目による評価規準 |
|----------|----------|------|-------|-------|------|--------------------------------------|
| 評価 観点 | 関心・意欲・態度 | | ◎ | ◎ | | ○定期考査、授業中の取り組みの様子、及び提出物の提出状況を特に重視する。 |
| | 思考・判断・表現 | ○ | ○ | | | |
| | 技能 | | | | ◎ | |
| | 知識・理解 | ◎ | ○ | ○ | | |

3, 年間計画

| 月 | 週 | 配当時間 | 学習項目 | 学習到達目標 | 学習の方法 |
|----|---|------|------------------------------|---|-------------|
| 4 | 3 | 6 | 植物学的分類 | ・学名を含めて、植物の分類方法について理解する ・同科、同属植物の共通点について理解する | 講義 |
| 5 | 4 | 8 | 第4章 切り花生産 一、二年草の切り花 | | |
| 6 | 4 | 8 | 宿根草の切り花 | ・一、二年草の切り花の種類、特性、栽培管理法について理解する | 講義・観察 |
| 7 | 1 | 2 | | | |
| 9 | 4 | 8 | 球根の切り花 | ・宿根草の切り花の種類、特性、栽培管理法について理解する | 講義 中間考査 |
| | | | 第5章 鉢もの生産 鉢花類（シクラメン） | | |
| 10 | 4 | 8 | 観葉植物 | ・鉢もの全般の特性や栽培管理について理解する | 講義 期末考査 |
| 11 | 4 | 8 | ラン類（シンビジューム） | ・観葉植物の特性、栽培管理法について理解する | 講義・観察 |
| 12 | 1 | 2 | 切り花・球根類・花木 球根類（チューリップ・ユリ） | ・シンビジュームの管理方法、株分け等の繁殖方法について理解する | 講義 中間考査 |
| | | | 花木（バラ） | ・球根の仕組みから植え付け、球根の保存方法について理解する | |
| 1 | 3 | 6 | 花壇用草花の栽培 | ・バラの栽培の基本について理解する | 講義 期末考査 |
| | | | | ・花壇用草花（ハーブ類）について種類、特性、栽培管理を理解する | |
| | | | | | 講義 学年末考査 |